

# 令和7年 稲作情報 vol. 8

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakujyutujyouhou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部	Tel 0241-62-5262
南郷普及所	Tel 0241-72-2243
J A会津よつば田島営農経済センター	Tel 0241-63-1172
南郷営農経済センター	Tel 0241-72-2554
下郷資材センター	Tel 0241-69-1088

## チェックポイント

令和7年の稲作を振り返り、令和8年に生かしましょう。

- 1 気象の変化に耐えられる土づくりをしましょう。
- 2 斑点米カメムシ類には、薬剤2回散布
- 3 品種構成を工夫して、作業分散・適期刈取

### 1 令和7年の気象経過と水稻生育の特徴・病害虫の発生状況について

◆令和7年の6月～10月の平均気温は、平年と比べ、およそ2.0℃高く推移しました。

生育は順調に進み、出穂期・成熟期が早まりました。

品種（生産地）	出穂期（平年比）	成熟期（平年比）
里山のつぶ（下郷町）	8/4（-3日）	9/14（-7日）
コシヒカリ（只見町）	8/6（-3日）	9/14（-4日）
ひとめぼれ（南会津町）	8/3（-2日）	9/13（-5日）

◆只見地区で、7月の降水量が59.0mmで、平年値321.1mmと比べておよそ80%減少しました。

▶ 渴水により7月下旬には場の白乾、水稻の葉巻が見られました。

◆斑点米カメムシ類注意報が令和7年7月16日に県内全域に発表されました。南会津地方でも斑点米カメムシ類が多く見られましたが、畦畔の草刈りや、適切な防除が実施されました。特に、ドローンによる防除が増加しています。

▶ 南会津地方の1等米比率は94.0%（JA会津よつば 令和8年1月13日時点）でした（前年比+4%）。

	R 5	R 6	R 7
1等米比率	74.6%	90.0%	94.0%

## 2 令和8年の対策について

### (1) 土づくりについて（健全な稲の生育は、力強い土から）

◆土壤改良剤の施用は、健全な稲の生育につながり、稲が気象の変化に耐えられるようになります。

◆稻わらのすき込みも土づくりに効果的です。地温の高い秋にすき込むと、早く分解が進みます。

表1 土壤改良剤の例

資材名	施用量 (kg/10a)	成分 (%)				
		P	K	Mg	Si	Fe
ケイカリン	40～60	12.0	12.0	5.6	20.0	-
ケイカリンバリュ ー		8.0	2.0	3.0	15.0	6.0

### (2) 斑点米カメムシ類について

◆斑点米カメムシ類の防除は、耕種的防除と化学的防除です。

#### 【耕種的防除】

畦畔など水田周辺の除草は、出穂10日前までに終了させます。除草の終了時期を見極めるため

に、幼穂長から出穂期を予測します。

水田内のイネ科雑草やイヌホタルイ等のカヤツリグサ科雑草の穂は、アカスジカスミカメの産卵場所となるため、水田内の雑草管理も徹底しましょう。

#### 【化学的防除】

南会津地域は、これまでカスミカメムシ類（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ、体長5～6mm）が主に確認されていましたが、近年ホソハリカメムシ（体長10mm程度）のカメムシが確認されています。

これらのカメムシに対して、薬剤散布は2回が基本です。

◆ドローンなど無人航空機で散布できる薬剤が増えてきています。通常の散布と希釈倍率が異なるため、使用時は最新の登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

なお、無人航空機による防除を行う場合は、計画と実績の報告を南会津農林事務所農業振興普及部までお願いします。

また、無人航空機等の空中散布を実施する際は、農薬の飛散や、ミツバチへの被害に注意して下さい。

薬剤名	使用時期	使用量 (L/10a)	本剤の使用回数	使用方法
スタークル液剤 10	収穫7日前まで	0.8	3回以内	無人航空機による散布
キラップフロアブル	収穫14日前まで	0.8	2回以内	無人ヘリコプターによる散布

表2 無人航空機で散布可能なカメムシ類防除薬剤の例

月	7月			8月		
旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ (ひとめぼれ・ 田島5カ年平年)	幼穂形成期	減数 分裂期	出穂期 (8/5頃)	穂揃い期 (8/8頃)	乳熟期 (8/14頃)	糊熟期 (8/21頃)
化学的 防除	粉剤・液剤				1回目	(1回目の7日後) 2回目
	粒剤			1回目	多発が予想される場合は 散布剤で追加防除	
耕種的 防除	草刈り	草刈り徹底期間		草刈り禁止（中断）期間		

図1 ひとめぼれの防除イメージ

出穂10日前まで  
(7/26頃)

### (3) 適期刈取について

- ◆早期落水は、乳白粒等の発生による品質低下の要因となるので、落水は出穂後30日以降を目安に行います。
- ◆刈取時期は玄米品質に大きく影響します。適期より早く刈取を行うと青未熟粒が多く、適期より遅れると胴割粒や乳白粒が多くなります。適期刈取を行い、全量1等を目指しましょう。
- ◆品種構成を工夫して、刈取作業の分散・適期刈取を図りましょう。

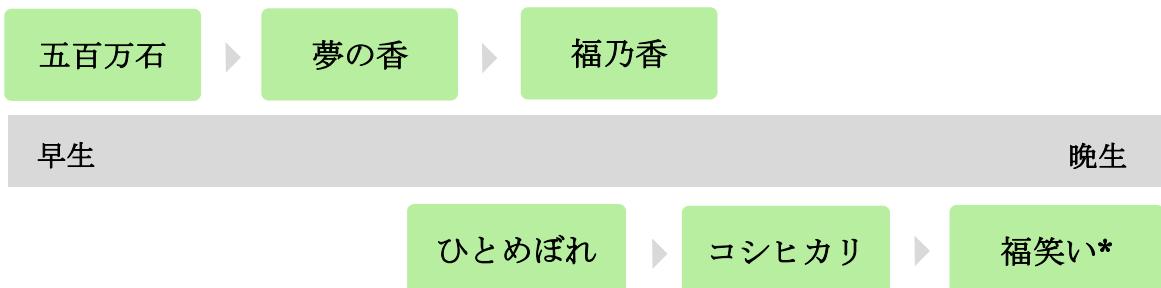


図2 収穫期の分散を図った品種構成の例

\*福笑いの生産には第三者認証GAP等の取得が必要です。

### GAPに取り組んでみませんか？

GAP（農業生産工程管理）は、種・定植等から収穫・出荷までの過程について、適切なやり方を決めて実践し、適正に行われているかチェックし、改善していく、持続的な活動のことです。

FGAPの手引き（県HP）はこちら→

